



日本クリスチャン・アシュラム連盟

# 日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕

〒165-0027 東京都中野区野方 1-55-1 天門教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558  
事務局メール・TENMONKYOUKAI70@outlook.jp TEL・03-3385-7491 HP <http://ashram.jp/>

## 震災に思う



牧之原ビジョン教会  
引退牧師 横山 勲

元日に発生した能登半島地震から一か月が過ぎました。今だにゴジラが踏み荒らしたような凄まじい光景が放映され、死者行方不明者及び関連死者の数は増え

続け、被災した住民の生活は極度の危険と不安にさらされています。

こうした災害に見舞われる時、ふと頭をよぎるのは「愛なる神が働いておられるなら、どうしてこのような酷いことを看過されるのであろうか」という短絡的な疑問です。

しかし、聖書には地震発生が追い風となって福音宣教が進展していったことも記されています。使徒の働き 16 章 19～34 節、パウロとシラスがピリピで迫害を受け鞭打たれ投獄された時のことです。

「真夜中ごろ、パウロとシラスは祈りつつ、神を賛美する歌を歌っていた。ほかの囚人たちはそれに聞き入っていた。すると突然、大きな地震が起こり、牢獄の土台が揺れ動き、たちまち扉が全部開いて、すべての囚人の鎖が外れてしまった」

(16 : 25、26) と記されています。囚人を逃がした看守は死刑と定められていたので、もはやこれまでと看守は自害しようとしていました。しかし、不思議なことにパウロとシラスをはじめ囚人は誰一人逃亡してはいませんでした。恐れを感じた看守は主イエス・キリストを信じ、また家族も信じてバプテスマを受けピリピ教会の初穂となったの

でした。

倒壊した建物の下敷きとなり、津波にのまれ犠牲となった命について考えると、無駄な死は一つとして無いことを思われます。

福音歌手の森祐理さんは阪神淡路大震災で弟さんを亡くされました。3月の大学の卒業と読売新聞社の入社が内定していた1月17日、不幸にも震災の犠牲となって若き命を散らしたのです。福音歌手として歩み始めたばかりの祐理さんにとっては、この試練はとうてい受け入れられないものであり、深い心の傷となりました。しかし、この試練を通してその傷は、同じ苦しみ悩みにある被災者への慰めと励ましへと変わっていきました。東日本の被災地には100回以上も訪れ、慰め励まし歌い続けて来られました。その原動力となったのは、弟さんの犠牲の死でありました。お母さまの尚江姉は1月17日の追悼祈禱会で「息子は今日も私たちのために天国で忙しく働いてくれます」と語っておられました。

犠牲となった命はやがて、失った家族の慰めと支えになる日が必ず来ることを信じてやみません。

南海トラフ地震が20年以内に70%以上の確率で起こると言われています。ここ静岡はその中心地であります。地震に備えて、マニュアルに沿って備えはしていますが安心できるものはありません。どんなことが起こっても安心できるシェルターは、堅固な岩なるイエス・キリストなのでから。

アシュラム連盟のホームページのQRコードは右記の通りです。



## 霊想 いつまでも

日本バプテスト連盟 古賀バプテスト教会

牧師 泉 清隆



詩編には嘆きの祈りが多くあります。13 編 2 節「いつまで、主よわたしを忘れておられるのか。いつまで、御顔をわたしから隠しておられるのか。」2~3 節で「いつまで」と四

回も叫んでいます。私たちも「いつまで」と叫ぶことがあります。御顔を隠すとは神が怒るという意味もありますので、神が何か怒っているように思えるのだと思います。

3 節「いつまで、わたしの魂は思い煩い 日々の嘆きが心を去らないのか。いつまで、敵はわたしに向かって誇るのか。」この「思い煩い」と訳されている言葉はもともと忠告、助言、アドバイスですが、ヘブライ語の直訳では「計画」とも訳されていました。そうなるこれは神の計画となります。「神はこれこれこのような計画を持っておられるので、今はこのようになっています」というものでしょうか。それで思い煩いの原因は神の計画が分からないから思い煩う、「いつまで神の助言がないのか」ということになると思います。

「日々の嘆きが心を去らないのか」(新共同訳)では「心に悲しみを抱き続けるのか」、これは自分の心が痛いということです。「昼も夜も一日中、悲しんでいなければならないのか、来る日も来る日も心に憂いを抱かなければならないのでしょうか」というのです。

次に敵という言葉が出てまいります。この敵を「痛み」「苦痛」と訳したものもあります。ここでは 4 節に「死の眠り」とありますので病気である、また死であるとの解釈もあります。4 節「わたしの神、主よ、顧みてわたしに答え わたしの目に光を与えてください 死の眠りに就くことのないように。」この「わたしの目に光を与えてください」は、神のことがよく分かるように、あなたのことを知ることを学ばせてくださいと祈っ

ているように思います。自分がこうだと思っても、もしかしたら間違いかもしれません。そのような意味で、私の目を明らかにしてくださいと祈るのではないかと思います。

6 節「あなたの慈しみに依り頼みます。わたしの心は御救いに喜び躍り 主に向かって歌います。『主はわたしに報いてくださった』と。」前節から 6 節の間にはかなり時間があつたと思います。口語訳では最初に「しかし」が出てまいります。「そして」と訳しているものもありますが、信仰の言葉は「しかし」から始まると私はいつも思っています。「大変だ、しかし大丈夫」というのが信仰の言葉です。問題は依然としてありますが、しかし大丈夫だということです。旧約聖書のヘブライ語は過去形はなく、代わりに未完了形という時制を使います。問題が片づかなくても、苦しみが続いていても、神にあっては終わっている。片づいているということです。完了しているのです。解決しているのです。だから「わたしはあなたのいつくしみに信頼し、わたしの心はあなたの救いを喜びます」。詩人は自分のような者が選ばれたということを思い起こしていると思います。それは恵みです。そして神の救いで心が喜びでいっぱいになる、とあります。私たちは何か神さまから無視されているように思える、「いつまでですか、いつまでですか」と四回も叫ばざるを得ない中でこそ、本当に神が豊かに報いてくださっている、神によって豊かに顧みられていることに気づかされます。

詩編 106 編 44 節「主はなお、災いにある彼らを顧み その叫びを聞き」とあるとおりです。

### 第 26 回アシュラム連盟全国理事会開催

日時：6 月 20 日(木)~21 日(金)

会場：山崎製パン総合クリエイションセンター(市川)

2 年ごとに連盟の働き、発展のために北は北海道、関東、関西、九州から理事が集まり全国理事会を開催します。「アシュラムをどう発展させるか」を主題にセミナーを開き、翌日は各地のアシュラムの報告、また運営について話し合いを行い、事務局から会計報告、さらに規約による理事改選を協議いたします。



## 立証 関西アシュラムに参加してから

日本キリスト教団 京都復興教会

牧師 深谷 与那人



今から 30 年近く前、横山義孝先生が牧会されていた、東京新生教会のアシュラムに一度だけ参加させていただきました。どのような経緯だったか定かでなく、それが本当にアシュラムだったのかも曖昧なのですが、お互いのニードを分かち合い、祈ってもらった経験は、印象的で記憶に残っています。

母校・東京聖書学校の校長、島隆三先生や、舎監の西海満希子先生から、たびたびアシュラムの恵みについて聞かされました。また、両親もアシュラムに関わることがありましたので、アシュラムは身近なところで行われている、健全で昔から続いている修養会、というイメージでした。

私は神学校を卒業後、ホーリネスの群の派遣で、現在の京都復興教会に伝道師として仕えるようになりました。その最初の年（2006 年）から、何も分からないまま、関西アシュラムに参加させていただくようになり、気づけば 20 年近くになります。初めてのアシュラムは、六甲セミナーハウスを会場にして行われました。台風の暗い山道を、必死で運転して清水潔先生をお連れしたことは、今となっては懐かしい思い出です。その時の助言者は、故・辻中昭一先生でした。翌年からは、神戸・御影の「母の家ベテル」が会場となり、現在に至ります。シスターたちに温かく迎えられ、心のこもった手作りのお食事をいただくと、「アシュラムで養われる」と皆さんが言われる意味がわかるような気がします。御言葉に静聴し、黙想するのに、ぴったりの会場です。

関西アシュラムは、毎年 9 月の連休に行われ、大体、京都復興教会の合同記念礼拝の後に行われました。納骨式や、ご遺族への対応、納骨堂の整備など、慌ただしい日々がやっと終わって、阪神のエンジ色の電車が走る線路のすぐ近くにある、母の家ベテルに到着すると、身も心もホッと解か

れるようでした。正直に言うと、ここ数年まで、アシュラムはニードを持って参加するというよりは、私にとって幼稚園の二学期が始まり、合同記念礼拝がやっとひと段落して、「束の間の休息」という位置づけでした。参加される方々も、同世代はほぼいなくて、大先輩方のもとに行くだけで褒められた、ということも一つの要素だったかもしれません。かつて助言者としてご用をくださった後宮俊夫先生、村瀬俊夫先生、また関西アシュラムを牽引された、辻中先生、杉田先生、古川先生、小島先生、そして脇田先生、そんな先生方が、今はみな天に帰られました。当教会の常連参加の姉妹方も、ほとんどは御国に旅立ち、寂しい限りです。最近になって、やっとアシュラムの意義を改めて心にとめるようになったところです。

2019 年に、京都復興教会の名誉牧師・清水潔先生が、関西アシュラムの支部長となりました。導きを感じて、その年からアシュラムの五本柱に着想を得た「教会形成 5 年計画」を掲げています。アシュラム自体への参加者は、なかなか増えませんが、毎年一つずつ「開心」「静聴」「充滿」そして「献身」というテーマを取り上げる中で、兄弟姉妹の中にも、アシュラムが以前より身近になってきたと思います。

スタンレー博士は、戦後の荒廃した日本社会とクリスチャンたちの現状を見て、クリスチャン・アシュラムを紹介されたということです。現代の繰り返される自然災害や長引く戦争、また高齢化や献身者不足、介護や育児の問題など、教会と社会を取り巻く諸問題に対しても、アシュラムの働きは、クリスチャンが恵みと喜びを見出す手段として、とても効果的であると思っています。ヨガやマインドフルネスなど、インドを発祥とする習慣が、心を穏やかにするものとして世代を超えて受け入れられていますが、信仰に基づく素晴らしいセッションとして、アシュラムも、多くの人に紹介され、実践されるようになることを願っています。



京都復興教会全景

## 第55回城北アシュラムに出席して

日本基督教団 新宿西教会 信徒 守部 喜雅

ですから、私たちは落胆しません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。  
(第2コリント4章16節)

これは、2月12日に開催された城北アシュラムの中の「静聴の時」に与えられたみ言葉です。そして、このみ言葉を味わっている時、60年以上も前の、ある光景が鮮やかによみがえってきたのです。当時、23歳の青年だった私は、岡田実牧師の勧めで訪問伝道全国大会に参加していました。その時、カップルで祈りを共にするプログラムがあり、横山義孝牧師と初めてお会いしたのです。先生の祈りは激烈でした。しかし、信仰的にまだ幼い私にとって、その祈りは、信仰の確信へと導いてくれたのです。

今回のアシュラムのプログラムでは、大会の総まとめともいべき、「充滿の時」に97歳の横山義孝先生が霊的な導きをして下さいました。その声は、60年前に聴いた先生の激烈な祈りの声と変わらず、私の内なる人を揺さぶりました。

「たとえ、私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。」このみ言葉に生きる信仰の先達者がアシュラムを導いて下さっている——その恵みを与えられただけでも今回のアシュラムに参加して本当に良かったと思いました。なお、アシュラム運動はスタンレー・ジョーンズ博士により日本にもたらされましたが、訪問伝道(こころの友伝道)の働きもスタンレー先生の発案で始まったのです。



## 第5回志木教会アシュラム報告

日本基督教団 志木教会 牧師 横山 基生



2019年10月に西海満希子先生を助言者としてお迎えし、アシュラムとは何かをご指導していただき第1回を開催し、その恵みの素晴らしさを信徒たちが経験することができました。コロナ禍にあっても短縮型のアシュラムを毎年続け、2月17日(土)午後2時から、18日(日)午後2時まで第5回目のアシュラムを昼食付きで開催できました。

助言者として日本基督教団脇本教会の中西絵津子先生をお迎えし、志木教会の今年の教会標語「共に建て上げられる」、年間聖句エフェソ2章22節に沿って、メッセージを語っていただきました。これらは、昨年11月に開催されたホーリネスの群信徒・教師共同セミナー「教会の7つの本質とコーチング」から導かれたものでした。このセミナーの責任者であられた中西先生に、このテーマに関わる内容も織り込んでいただくことを通して、アシュラムのスピリットである、共に御言葉に生かされ祈り合うことと、相互理解・相互牧会を目指すコーチングが、豊かに重なり合うことに気づくことができました。

アシュラム直後の祈祷会や婦人会で、アシュラムの恵みを分かち合うことができ、今回のアシュラムを通して多くの者たちが霊的に成長できたことが確認できました。土曜日は15名、日曜日の昼食時で約30名の出席でした。心を開き分かち合うことに対して拒否反応を覚える方が会員の中に多くいますが、さらにアシュラムの恵みが浸透するようにと祈っています。

**アシュラム予告**

- 第2回戸畑アシュラム  
日時・4月28〜29日(日夕方〜月祝)
- 九州アシュラム  
日時・9月15〜16日(日〜月祝)
- 助言者・深谷与那人師
- 第59回関東アシュラム  
日時・9月16〜18日(月祝〜水)
- 第57回関西アシュラム  
日時・9月23日(月振替祝)
- 会場・大阪クリスチャンセンター  
助言者・柏 明史師
- 函館栄光キリスト教会ミニアシュラム  
日時・10月14日(月祝)
- そのほか、東京新生教会・横浜岡村教会・西川口教会・浦和別所教会などで予定されています。

**お支えください**

アシュラム連盟の働きは皆様からのご献金、各支部からの分担金によって支えられています。事務局諸経費、アシュラム誌編集印刷代、発送費等に毎年120万円が必要となっています。どうか必要のためにお祈りお支えくださいますように。

**編集後記**

今年の冬は、コロナとインフルエンザの蔓延で教会の集会等も様々な影響を受けました。今後はアシュラムも通常の集会を開くことができそうです。教会は高齢化が進み、いずれの教団も献身者が少なく、無牧の教会が増えつつあります。各地のアシュラムでは個人の祈りの課題はもちろんのこと、各教会、各教団のために熱い祈りが積み重ねられることを期待しています。また、対面の集会が持てることは感謝なことです。